

教育者としての「使命感」・「人間愛」・「創造力」を有する教員の養成を目指す

JUEN

Joetsu University of Education

【ジュエン】

2026

秋

No.56

国立大学法人
上越教育大学
Joetsu University of Education

学園だより

特集

子どもも学生も
成長できる場所！

学びのひろば

教員就職率 全国トップクラス！

学校教育学部
教員就職率
全国第2位

88.5%
教員就職者数
123名

教職大学院

87.7%

教員就職者数 135名
(現職教員学生を除く)

全国第1位

※令和7年3月卒業・修了者の就職状況

運動の「できた」を
引き出す教員に

研究室

学習者の「感覚」に寄り添う
スポーツ運動学

ようこそ

私の専門は「スポーツ運動学」です。一見なじみのない分野ですが、「運動がうまくできない人に、どのように教えればよいか」を、学習者の動きの感覚に寄り添いながら考える学問です。運動指導ではフォームや技術といった目に見える動きに注目しがちですが、実際には「怖い」「分かっていないのにできない」といった言葉ににくい感覚が大きく関わっています。本研究では、こうした内側の感覚に目を向け、「なぜできないのか」「どうすれば変わるのか」を探っていきます。

私自身、体操競技で技の習得に悩んだ経験があります。理論的な説明ではできるようにならず、他の選手の感覚を手がかりに試行錯誤する中で初めて成功しました。しかしその感覚は外から見た理想的な動きとは異なっていました。この経験から、「外から見える正しさ」と「本人のやりやすさ」は一致しないことに気づき、感覚に寄り添った指導の重要性を実感しました。ICTで動きを確認できる現在でも、この視点は欠かせません。



本研究室では、理論と実践を行き来しながら学びます。授業実践や研究を通して「なぜうまくいかないのか」を多面的に捉え、改善方法を考えます。例えば、跳び箱が跳べない背景に恐怖心がある場合や、ダンスが苦手に見える理由が「動き方が分らない」ことにある場合もあります。さらに、シュートが入らないといった一見単純な課題にも、身体の使い方やリズムの捉え方など複数の要因が関わっています。こうした気づきを仲間と共有し、再び実践に生かすことで、学習者の「できた」という実感を引き出せる教師の育成を目指しています。

理論と実践を往還し、
学びを深める

長谷川晃一（はせがわ こういち） 芸術・体育・総合教育学系 講師
新潟市出身。上越教育大学大学院修了。修士（教育学）。専門はスポーツ運動学。環太平洋大学、岐阜聖徳学園大学での講師経験を経て、2021年4月本学着任。運動学、ダンス、バレーボール、スノーボードなどの授業を担当。



自分を見つけられた大学生活

上越教育大学の魅力

入学して一番良かったことは「教師になりたい」という思いがより強くなったことです。

上越教育大学は教育大学ということもあり、学校現場に関する学びが充実しています。特に、三年次には小学校実習、四年次には中学校実習が控えています*、一、二年生でも実際に学校へ行く機会があります。子どもたちと関わったり、先生方の姿を見て学んだりする経験を通して自分が将来「どんな先生になりたいのか」「どんな授業をしたいのか」を早い段階から真剣に考えることができました。

また、周りも先生になりたいと思って入学してきた人たちがほとんどなので、理想の教師像や教育観について語り合える環境があります。互いに刺激を受けながら学び、日々の成長を感じています。

楽しい学生生活

大学では講義や実習、課外活動等を通してさまざまな人と関わり、幅広い交友関係を築くことができています。入学当初、大学生活を楽しむことができるかと不安でしたが、友達がたくさんできてだけでなく、学年を超えた先輩・後輩とも交流を深めることができました。課外活動では小さいころから続けてきた剣道に取り組み、充実した毎日過ごしています。

将来なりたい自分

私は、子どもたちに「この先生なら安心して相談できる」と思ってもらえるような、信頼される教師になりたいと思っています。

子ども一人ひとりに寄り添い、困ったときや悩んだときに真っ先に頼ってもらえる存在になることが目標です。大学での学びや大学生活を通して得た実践的な経験を生かし、子どもたち一人ひとりの成長を支えられる教師を目指していきたいと思っています。

※四年次の中学校実習は選択制です。



学部3年
教科教育・教科複合コース
(人文・社会/社会)
津久井 裕太 さん



好きな色のつなぎを着て活動! 唯一の屋外活動クラブです。

自然で楽しむクラブ
自然の中で活動を通して、仲間と協力し、自然の不思議や魅力を発見して楽しく学ぶクラブです。季節の自然に触れながら、木の葉や葉っぱ、竹などを使って、その季節ならではの作品づくりを行います。また、自然の中で体を動かしたり、仲間と協力して活動したりすることで、新しい発見や達成感を味わい、自然を大切にする気持ちを子どもたちと一緒に育みます。

自然系クラブ わくわく☆ しぜん探検隊

当日の活動内容

アイスブレイク
「私は誰だ? 背中カード当てゲーム」
屋内活動 (雨天のため)
「カランコロン」竹風鈴づくり
季節に合った自然物を利用した
工作を楽しむ活動です。



準備から本番までを通して得た学び

第2回活動では竹風鈴を作りました。その際、安全管理を意識しながら子どもたちを支援しました。完成した風鈴を嬉しそうに鳴らす姿が印象的でした。一方で、待ち時間への対応や時間配分などの課題も見つかり、今後に生かしたいと感じました。

クラブチーフ
学部2年
学校教育コース
(学級経営・授業経営)
谷池 樺斗さん

自然を生かした企画
今年度はブレ活動が本番の1週間前だったため、自然物の材料集めに苦労し、準備の一部が直前までかかりました。企画で自然を生かすためには、早めに準備を進め、見通しを持って行動することが大切だと学びました。第1回活動では昨年度の倍以上の人数の子どもが参加してくれたので、自然の中で安全にみんなで活動できるように注意し、無事に楽しく活動することができました。これらの経験を生かし、第2回活動に臨みました。



事務局長
学部3年
学校教育コース
(学級経営・授業経営)
大平 望未さん

学びのひろばで子ども もっとステップアップ!

教育実習やボランティアとはまた違う、子どもたちの笑顔や活動を楽しむ様子が見られる貴重な機会だと感じています。学びのひろばに参加することで私たち教員を目指す立場としてより多くのことを学ぶことができます。

令和8年度の「学びのひろば」30年目を迎えた「学びのひろば」。今年度は7つのクラブが設けられ、それぞれ工夫を凝らした活動を展開しています。本特集では、令和8年7月18日(土)に実施した第2回活動を中心に取材し、「学びのひろば」の意義や魅力を探ってみました!

事務局

・学生事務局
(事務局長、副事務局長、実行委員長、副実行委員長ほか)
・顧問、副顧問(教員)

学びのひろば 令和8年度 設立クラブ

21歳 1~2 学年 低学年総合系クラブ1 べたべた さっずぺんぎん	21歳 1~2 学年 低学年総合系クラブ2 にこにこさっず ますかっど	21歳 3~6 学年 理科系クラブ わくわく/みんなの サイエンスパワー
21歳 3~6 学年 工作系クラブ クラブコンの ひらめき コンコン工房!	21歳 3~6 学年 自然系クラブ わくわく☆ しぜん探検隊	21歳 3~6 学年 運動系クラブ そわいけ/ あそぼあーたい
		21歳 1~2 学年 音楽系クラブ みんながかなでよう! ドレミファ コンサート



学びのひろばができるまで

活動日を迎えるまでに、各クラブで会議や制作などの準備を行っています。

2 話し合い、事前準備

各クラブが昼休みに週2~3回集まり、企画を考えます。子どもたちにももらえるよう、各々がクラブならではの企画を考えたり物品を制作したりしています。

1 代表者会議

毎週木曜日の放課後に、各クラブのリーダー4名と事務局で会議を行っています。活動日に行う企画や当日の安全管理などについて話し合っています。



5 反省会

子どもたちが帰ったあと、学生で会場の片付けや活動の振り返りを行います。それらを元に、次の活動へと繋げていきます。



4 前日準備、確認

各クラブの会場準備のほかに、受付をする講堂の準備、会計の準備、車の誘導や広報、記録などについて確認します。



3 リハーサル

昼休みなどを使って準備をします。各クラブで台本の確認などを行います。物品などの確認もします。

学びのひろば

「学びのひろば」は、上越教育大学フрендシップ事業(※)の一環として始まりました。年5回の活動日に、上越市内の小学校に通う子どもたちを大学に招き、レクリエーションや野外活動、工作、運動、音楽などを楽しみながら子どもと触れ合う活動を行っています。企画・運営は、全て学生の手によって行われ、子ども理解を深め、実践力を養成します。



▲詳細はこちら

※フрендシップ事業とは、平成9年度に当時の文部省が、「学生が子どもたちとふれあい、子ども理解を深め、教員としての実践的指導力の基礎を習得する」ことを目的に、全国の教員養成系大学に推奨し、実施されてきた事業です。



子どもたちの豊かなアイデアが詰まった作品づくりを通して、たくさんの笑顔と学びに触れることができます!

工作でひらめきを形に
私たちは、子どもたちが自分なりの発想やアイデアを大切に、自由のびのびと作品づくりを楽しめる場となるよう活動しています。思いつたことを形にする経験を通して、子どもたちに自信をつけてほしいと考えています。また、自分の考えやアイデアを言葉にして周囲と共有する「作品鑑賞の機会」を通して、新たな視点に気づき、学びを深めていくことを目指します。

工作系クラブ ひろめき コンコン工房!

当日の活動内容

「ゆかたデコレーション大作戦!」
「わたしのきんぎょすくってちよーだい!」
「みんなでわっしょい! ワクワクおみこし!」

工作でお祭りを完成させよう!



簡単にいかないからこそ のやりがいと新しい発見

学びのひろばの活動は、限られた時間で準備を進める大変さもありますが、子どもたちが笑顔で楽しそうに活動する姿を見ると、大きなやりがいを感じます。私たち自身も活動を通して多くの気づきを得て、大きく成長できていると実感しています。

クラブチーフ
学部2年
教科教育・教科複合コース
(人文・社会/英語)
形野 元樹さん

準備・工夫・改善の積み重ね
準備では、何度も企画内容を見直し、うまくいかなかった点を学生同士でフィードバックし合いながら改善を重ねました。当日は、子どもたちが私たちの想像を超える発想で作品を完成させ、そのアイデアの豊かさや表現の面白さを改めて実感しました。また、鑑賞を通して友達作品から新たな気づきを得る姿も見られ、次の活動への期待がさらに高まりました。

顧問からの メッセージ

未来へ続く学びのバトン

初代事務局長として立ち上げに携わり、現在は顧問として、学生たちが主体となって紡ぐ「学びのひろば」の歴史を見守っています。

「子どもたちが仲間とともに学ぶことの楽しさを感じ、新しい発見と挑戦の場として主体的に取り組んでいく」という目標は、今も色褪せていません。教師を目指す学生たちは、自ら企画・立案し、関わり方や環境づくりを模索しながら、子どもたちとの触れ合いを通じて実践力を高めています。

学生たちの自発的な挑戦によって子どもたちが輝くこの大切な活動を、これからも温かく応援してまいります。



学びのひろば初代事務局長・
工作系クラブ顧問
自然科学領域/理科
木原 義季先生

音楽系クラブ みんなで かなでよう! ドレミファ コンサート

かなでよう私のハーモニー

私たちは、子どもが歌や楽器、リズム遊びを通して、音楽を楽しみながら、自分らしさを色んな場面で表現することを大切にしながら活動しています。さまざまな音楽活動に取り組み中で、音やリズムに親しみ、音楽の楽しさや面白さを感じてほしいと思っています。また、表現する活動を通して、自分らしい表現を見つけ、表現することの楽しさを味わい自信をつけてほしいです。



子どもと関わるのが大好きな学生とともに、音楽を用いた楽しい遊びをたくさん行っています!

当日の活動内容

「きらきらおほしさにねがいをこめて」
「あまのがわのおんがくたい!」
「ひこばしさんにであえまように」

織姫と彦星が出会えるように、
リズムゲームをクリアし天の川をつなげよう!



学生も子ども目線に なって楽しむ

企画づくりでは、子どもが楽しめることはもちろん、学生も夢中になって楽しめる内容になっているかを大切にしています。子どもと学生と一緒に笑顔になれる時間だからこそ、お互いに楽しいと感じられる活動を常に目指しています。



クラブチーフ
学部2年
教科教育・教科複合コース
(生活/健康/保健体育)
杉本 悠さん

音楽の触れ方を工夫して
準備では、実際に音楽を流しながら活動の様子をイメージし、子どもが楽しめる進行や声かけを何度も確認し検討しました。音を聴くだけでなく、自分でオリジナルの楽器を作ってみたり、楽器以外にも自分の声や体を使って音を鳴らしてみたりする活動を取り入れ、子どもにいろいろな方法で音楽を感じてもらえるように工夫しました。これからも、子どもが音楽の楽しさを体験できる活動を届けていきたいです。

憧れてた職業！

学生がつくる
上教大生の
ひろば

上教大生が子どものころ
憧れていた職業を聞いてみました！

教員以外でなりたいた職業があったのに、
進路選択時にどうして先生を目指そうと
思ったのか？ 分岐点となった出来事や
そのエピソードから、未来の先生たち
の原点に迫ります。

質問

- 「憧れてた職業を教えてください」
- ① 憧れてた理由は…
 - ② どうして教員の道へ？
 - ③ 最後に一言！

料理人

廣山 晃平 学部1年

- ① 食べることの幸せと、料理を作ることに興味と楽しさを感じていたから。
- ② 子どものためになる仕事がしたいという思いと、小学校1年生のときの先生の言葉が心に響き、先生が最も子どものためになると考えたから。

国家公務員・政治家

船山 修太郎 学部2年

- ① 自分が暮らす日本の政治や経済に関わりたいと思っていたから。
- ② 国全体を自分の力で変えるのではなく、次世代への教育を通じて少しずつ身の回りから社会をよりよくすることができると考えたため。
- ③ 学びのひろばや学外の活動でも夢は叶えられます!!

看護師

佐々木 陽花 大学院2年

- ① 祖父が入院したときにお世話になって、とてもかこよかったから。
- ② もともと大学では管理栄養士として病院勤務を目指していました。免許だけ取っておくかという気持ちで参加した教育実習で「私がやりたかったことはこれだ!」と思い一気に方向転換しました。

精神科医

経免 光姫 学部2年

- ① 受診時の経験から、患者に寄り添える精神科医を目指したいと思ったから。
- ② 医大に行くには学費が高く悩んでいたところ、親が教職をすすめてくれた。学校での教育相談や進路相談を通して、子どもたちの心の拠り所になれるのではないかと考えた。

焼き鳥屋

深町 玲維 学部2年

- ① 特に移動販売車で、焼き鳥を目の前で焼いていてカッコよかったから。
- ② 主に小学5・6年生のときにいじめを経験し、その時に担任の先生からさまざまな援助をいただいたことがあり、それから、子どもたちに知識と人との関わり方を教えたいと思ったから。

幼稚園の先生

石原 颯太郎 学部3年

- ① 子どもが好きだったから。
- ② 小学校で勉強が始まり、楽しかった。さらに、友だちに勉強を教えて感謝されたから。
- ③ もっと小さいころは、パン屋になリたかった。

エレクトーンの先生

小林 祐莉 学部2年

- ① 幼稚園のときに見たエレクトーンのパフォーマンスがかこよかった。
- ② 音楽が楽しくないと言う人に中等で多く出会い、その一因が小学校の授業にあることを知った。エレクトーン講師だと音楽が好きな子にしかアプローチできないため、苦手な子にも楽しさを伝えられる小学校音楽専科の先生になろうと思った。

呉服店の店員

H.K

- ① 祖母が着付け講師の資格を持っており、幼い頃から着物が身近にあったから。

弁護士

学部2年
N.I

- ① 刑事ドラマで弁護士の役がカッコよかったから。

Webデザイナー

学部1年
A.H

- ① 中学のスライド作成時に、デザイナーの親に教えてもらったから。

トリマー

匿名希望

- ① 犬が好きだから。

フルート奏者

匿名希望

- ① 部活でフルートを吹いていて、その当時いちばん興味のあるものだったから。

郵便局員

学部2年
匿名希望

- ① 父親が郵便局員で、その職場の人によくしていただいたから。

保育士

匿名希望

- ① 職業体験が楽しかったから。

やっぱり/教員

C.T

- ① 小6のときに出会った先生が憧れて、自分の悩みなどをたくさん聞いてくれたり、自分の長所を見つけて学校行事などさまざまな場面で生かしたりしてくれたから。

舞台照明

渡辺 茉桜 大学院2年

- ① 役者を輝かせることができるから。
- ② 「社会人劇団に入ったけど、なんか違う...?」と感じ、立ち止まって考えたところ、「私は高校演劇が好きなんだ! そうだ! 教師になろう! そして顧問になろう!」と思ったから。

アイドル

弓田 惟仁 学部2年

- ① TVでのパフォーマンスを見て、カッコよかったから。
- ② 中学生のとき、ある先生の授業を受けて授業の楽しさを知り、その先生に憧れたことがきっかけで、教員という仕事に興味を持つようになったから。
- ③ 鉄道の運転手を目指していた時期もあった。

プロ野球選手

松永 航亮 学部2年

- ① 幼少期に見たプロ野球の試合で心奪われたから。
- ② 中学生のころ、後に甲子園に出場する人たちと一緒にチームでプレイする機会があり、才能の違いを感じてプロをあきらめたけれど、今後の人生でも野球に携わっていきたいと思っていたから。

編集後記

「憧れてた職業」についてのインタビューを通して、今教員を目指す理由や原点につながるエピソードが数多くあることを知りました。ご協力いただいた皆様、ありがとうございました!

学部2年
小林 祐莉

学部2年
弓田 惟仁

スキー部

活動内容

スキー部は、部員が多く個性あふれるとても賑やかな部活です！院生から学部1年生まで学年関係なく、みんなで和気あいあいと活動しています。4月から12月のオフシーズンは、毎週水曜日に1時間半程度トレーニング（オフトレ）を行っています。メニューにはバレーボールやフリスビーなどのゲームも取り入れ、冬に向けての体力づくりをしています。このオフトレを通じて、シーズン前から部員同士の仲が深まっています！シーズン中は、毎週スキー場で雪上練習を行っています。部内には「スキー班」と「スノーボード班」があり、それぞれ3月に行われる検定を目標にしています。また、スキー班は2月に開催され



る全国学生岩岳スキー大会にも出場します。学生同士で教え合うだけでなく、外部コーチによる指導や講習会など、上達するための環境がしっかり整っているため、正しい知識を身につけながら練習に励むことができます。

イベント盛りだくさん！

スキー部の魅力は冬だけではなく！春はお花見と新入生歓迎会、夏はBBQなど、オフシーズンにも楽しいイベントがあります。秋には先輩と道具の買い出しに行き、アドバンスをもらいながら自分に合ったものを選ぶことができます。そしてシーズン中には、最大のイベントである「追いコン合宿」が待っています！いつもとは違うスキー場で滑ることができ、また宿泊先の時間も最高の思い出になります。このように、スキー部は1年を通して楽しむことができる部活です。せっかくここ上越に来たのなら、私たちと一緒にスノースポーツを体験してみませんか？経験問わず大歓迎です！ぜひスキー部で充実した大学生活を送りましょう！！



DATA

令和8年7月現在

部員数／47人

活動日／

オフシーズン：毎週水曜日

シーズン：週1回程度（主に休日）

活動場所／

オフシーズン：スポーツ科学

実験棟2階、シーズン：スキー場

活動実績／

全国学生岩岳スキー大会出場

全日本スキー連盟スキー検

定・スノーボード検定受検

【取材協力者】

学部3年教科教育・教科複合コース（英語）

牛木 華帆

すぺしゃるさんくす

DATA

令和8年7月現在

部員数／11人

活動日／

現在は月1回、土曜日（参加するボランティアによって活動日数が増える場合あり）

活動場所／

福祉交流プラザ、市民プラザ、特別支援教育実践研究センター、人文棟805

活動実績／

年間11回、ナディアの会の活動ボランティア参加

【取材協力者】

大学院2年（特別支援教育領域）

森 美結

どんなサークル？

すぺしゃるさんくすは、余暇を楽しんだり、生活に役立つ学習をしたりする障がいのある青年たちのサポートをしながら、活動と一緒に楽しむボランティアサークルです！基本的には月1回土曜日に障がいのある青年たちの会である「ナディアの会」へ携わり、年間活動計画立案や買い物のサポートのほか、料理、エクササイズ、ボッチャなど、さまざまなプログラムに参加しています。参加者一人ひとりの「やってみたい」という思いを大切にしながら、交流を深め、楽しい時間を共有しています。学部生・院生を問わず参加できるサークルです。障がい者福祉や特別支援教育、ボランティア活動に興味がある方はもちろん、ボランティアが初めての方も大歓迎です！

「ありがとう」がたぐサークル

去年から活動に参加して1年が過ぎ、代表となって早2カ月。このサークルに所属してふと思ったのが、「あれ？すぺしゃるさんくすの由来って知らないなあ。」と代表の身でありながら、その由来を最近まで知りま

せんでした。調べてみると、「すぺしゃるさんくす」という名前には、地域のボランティア（例えば、自分たち）、障がい者支援団体、そして当事者さんと保護者さんの3者がお互いに「ありがとう」と言いながら支え合っている、という思いが込められているそうです。由来を知り、支援する側・される側という方向の関係ではなく、互いに支え合うことで成り立っているサークルだと実感しています。皆さんから笑顔で「ありがとう。」「楽しかったね。」と言っていただけに、「どのような関わり方がいいのだろう？」という自問もありますが、この活動に携わることができて良かったと感じます。障がいのある方と関わるなかで、多くの気づきや学びを得ることができます。一緒に楽しみながら活動でき、たくさんの笑顔や出会いに触れられることが、このサークルの魅力です！



上越教育大学附属中学校の取組

民主社会の発展に寄与する、人間性豊かな、たくましい生徒を育成する

- 1 美しいものや崇高なものに感動する心をもち、真理を不断に追求しようとする生徒を育てる
- 2 広い心と向上心をもち、求めて共に実践する生徒を育てる
- 3 自ら目標をもち、気力、体力の充実に努める生徒を育てる

義務教育の学校として

年に2回の合唱コンクールや平和学習を軸に据えた修学旅行など、特色ある教育活動を展開しています。

【合唱コンクール】



【体育大会】



【観桜会プロジェクト】



【沖縄修学旅行】



研究校として

「真正の学びに着眼した単元開発」を研究主題に掲げ、世の中のニーズに対応した教育の在り方を追究し、発信しています。

【夏の教育研究協議会】



【秋の教育研究協議会】



【冬のICT授業公開】



大学附属学校として

毎年多くの学生が教育実習を行ったり、学生の観察実習として授業を公開したりするなど、大学と連携した活動を行っています。

【わくわく大学デー】



【学生に向けた授業公開】



【教育実習】



秋の教育研究協議会

期日 令和8年10月29日（木）

内容 研究主題「真正の学びに着眼した単元開発」生徒が教科の学びに意義を見いだしながら没入する授業の追究」に基づく公開授業・協議会

参加費

1,000円

（大学関係者は無料）



マスコットキャラクター「ふぞくま」

当校は「確かな学力」「響く歌声」「あふれる探求心」を合い言葉にして、生徒も教職員も笑顔あふれる学校を目指しています。大学附属学校という強みを生かし、産学官の連携を強めながら特色ある教育を発信していきたいと考えています。秋に行われる研究会では、当校の取組の成果を見ていただきたいと思っています。多くの皆様からの御参加をお待ちしています。（文責：研究主任 那須洋平）



修了生からの
お便り



視覚障害教育と 地理学が出会った場所 — 山がつかない昔と今 —

私が上越教育大学を志望した理由の一つに、山が好きだったことがありますが、入学後は、ワンダーフォーゲル部に所属し、春日山、米山、妙高山、火打山など高田平野周辺の山をはじめ、北アルプスの山々に登頂しました。

さて、上教大の学部と大学院で過ごした6年間を思い返すと、学部時代に恩師の授業で教わった「keen eyes」という言葉が印象的です。地図と山が好きなのは、学部から自然地理ゼミに所属し、大学院時代は自然地理学に加えて、現在の特別支援学校教諭（視覚障害者に関する教育領域）の免許取得に向けて励みました。この背景には、視覚障害者である祖父母の存在と大学院進学が決定後に祖父が他界したことによる転換期があり、視覚障害教育と地理学が私の中で出会いました。特に大学院時代は、自然地理学の調査、臨床実習、盲学校での教育実習、修士論文執筆と激動の2年間でした。今もなお、当時の先生方や同期生の存在が揺るがない支えとなっています。

ところで、「カスガ」という言葉から、どこを連想されますか？「春日」は、福岡県、奈良市、東京都文京区など、日本の各地にある地名です。上教大関係者なら、「春日山」を思い浮かべる方が多いのではないのでしょうか。実は、現在の勤務先の筑波技術大学は、茨城県つくば市の春日と天久保に所在する日本で唯一の視覚障害者・聴覚障害者のための大学



嶋 俊樹
(しま としき)

和歌山県かつらぎ町出身。上越教育大学学校教育学部卒業後、同大学大学院学校教育研究科へ進学。大学院修了後は、大阪府内の公立学校、筑波大学附属視覚特別支援学校（途中、3年間の人事交流で東京都立久我山青光学園）での勤務を経て、令和4年に筑波技術大学障害者高等教育研究支援センターに着任。現在は教職課程と共生社会創成学部を担当。視覚障害者を対象とした地理的知識に関する研究を進めている。

です。筑波技大と上教大とをつなぐ不思議な縁が、つくば市春日と上越市山屋敷町という地名の中に眠っている気がします。現在、私は場所を表す言葉である地名に着目し、視覚障害のある児童がどのように認識しているのかについて研究を進めています。

最後に、これから志望される皆さまが、ご自身の強みや好きなことと学びたいことを融合させることによって、上教大の先生方や仲間とともに未来の新たな教育実践につながる何かが生み出されるはずです。もちろん、予期せぬことも起きますが、上越教育大学大学院が学びを深める充実した学びの場所になることを願うとともに、今後の新たな縁に期待します。

上教大 なんでも 掲示板

株式会社富山サンダーバース ベースボールクラブとの連携協定



本学と株式会社富山サンダーバースベースボールクラブ（富山県高岡市、代表取締役社長：永森 茂）は、連携・協力に関する協定を締結し、令和8年6月1日（月）にホテルニューオータニ高岡において調印式を、令和8年6月8日（月）に本学において協定発表記者会見を実施しました。

本協定は、多様な教職志望者の拡大を目指す上越教育大学と、選手のセカンドキャリアの選択肢の充実を目指す富山サンダーバースベースボールクラブ双方の目的が合致したため、連携協定を締結することになったものです。

今後は、多様な教職志望者の拡大、プロ野球選手のセカンドキャリアの充実などを連携事項として、双方が協力して取り組んでまいります。

上越教育大学と株式会社富山サンダーバースとの 連携協定調印式



▲連携協定調印式での株式会社富山サンダーバースベースボールクラブ永森社長（左）と、林学長（右）

上越教育大学と株式会社富山サンダーバースとの 連携協定締結発表記者会見



▲本学での協定発表記者会見

「教員養成学」研究の成果として 第2巻『教員養成学を創る』を刊行

本学では、地域創生の中核拠点として、地域における教員養成の在り方を研究し、その総体としての質的改善に資することを目的とした「教員養成学」の理念、内容、方法等の体系化を目指して組織的研究に取り組んでいます。

「教員養成学」構築に向けた研究の成果物として、全3巻の書籍の発刊を予定しており、令和7年3月の第1巻『教員養成学を考える—上越教育大学からの発信—』（風間書房）の刊行に続き、令和8年8月に第2巻『教員養成学を創る—上越教育大学からの提言—』（風間書房）を刊行しました。

また、9月14日（月）には、教員養成に携わる大学・学会関係者から上記第2巻の成果について忌憚なくご意見を頂戴する機会として合評会を開催しました。



▲「教員養成学合評会」ポスター

総合型選抜（Ⅰ型・Ⅱ型）による 初の新入生が入学！

学校教育学部では、令和8年度入試から新たに「総合型選抜（Ⅰ型・Ⅱ型）」を実施しています。令和8年4月には、これらの選抜を利用した新入生が入学しました。複数の選抜方法が設けられたことで、受験生一人ひとりの強みや関心等に応じた入試の選択肢が広がりました。



▲総合型選抜の詳細はこちら



J-style 通信

上越教育大学らしさをまとう

学長 林 泰成



大学の教職課程は、文部科学省の課程認定を受けて設置されています。認定基準が一定だとすれば、どの大学で学んでも同じような教員に育つように思われるかもしれません。しかし、必ずしもそうではありません。

国立の教育大学は全国で十一あります。互いに切磋琢磨しながら、そして学長・事務局長会議などで情報交流も行いながら、各大学は教育研究に携わっています。しかし、それでも、それぞれの大学で学んだ卒業生・修了生の皆さんは、それぞれの大学の雰囲気、考え方を身につけているように感じます。

同じ教職科目が教えられているとしても、担当する大学教員によつてその内容の理解は違うでしょうし、また、その地域の文化や風土の違いなども影響するのかもしれない。冬には雪に閉ざされる上越と、晴れの日が続く太平洋側とは、そこに暮らす人々の考え方が大きく違っているように、そう驚くことではないように思います。

仏教の用語に、「薫習（くんじゅう）」（「薫習」と表記されることもあり「第七版」には、「物に香が移り沁むように、あるものが習慣的に働きかけることにより、他のものに影響・作用を植え付けること」と記されています。仏教では、行為や思考が阿頼耶識（あらやしき）に沈着し、後の行動を規定する働きとなると説明されま

す。阿頼耶識とは、八つの識の最深奥にあるもので、無意識のレベルの意識のようなものです。

仏教における深い意味はさておき、こうした「薫習」というような学び方もあるのではないかと私は考えます。こうしたことがあるからこそ、古代中国の孔子が言うような「心の欲するところに従いて、矩をこえず」（自分の好きなようにやっているのだけれども規則を破つたりしない）というようなことも可能になるのではないかと、思うのです。別な言い方をすれば、暗黙知に支えられて意識せずに行動できるようになっている状態が成立しているということです。

現在の教育は、考えることや議論することを通して能力を開発するということが中心になっているように思います。もちろんそうしたことの大切さは言うまでもないことですが、加えて、「薫習」というようなやり方で「らしさをまとう」というようなことも、学びと教えるの場としてありうるのではないかと考えるのです。卒業生・修了される皆さんは、上越教育大学らしさを十分に身につけられたでしょうか？

上越教育大学同窓会



新会長就任のご挨拶 評議員会のご報告を兼ねて



在在校生と繋がりある活動を展開していく予定です。また、役員人事についても承認をいただきました。長年にわたり同窓会を牽引してこられた山本浩昭前

同窓会員の皆様におかれましては、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。このたび、同窓会会長を仰せつかりました、学部昭和60年度卒・大学院昭和62年度修了の笠原芳隆と申します。役員の皆様とともに、同窓会と大学のさらなる発展に寄与できるよう、誠心誠意努めてまいります所存です。

さて、去る2026（令和8）年7月11日（土）、オンラインにより、同窓会評議員会を開催いたしました。林学長、大森副学長、武井事務局長兼副学長にもご出席いただき、計18名にて活発な協議が行われました。

本評議員会では、2025（令和7）年度の事業・会計報告、2026（令和8）年度の事業計画・予算案等が承認されました。本同窓会は、卒業生や修了生だけでなく、在学生も会員であるという特色を持っています。そのため、各地の同窓会支部への支援等に加え、院生協議会や大学祭への助成等の在学生向け事業も継続してまいりました。今年度はこれらに加え、新たな企画を実施していくことも承認され、より在校生と繋がりある活動を展開していく予定です。

会長、そして中澤和仁前副会長がこのたび勇退されました。これまでのご尽力に心より感謝申し上げます。今後は、新たに副会長に就任された田邊道行氏、藤井和子氏、松本高志氏とともに、新体制で同窓会を盛り上げてまいります。

最後になりますが、同窓会が今後も存続し、卒業生・修了生、在学生、そして大学に貢献し続けられるよう、この7月に「同窓会活性化プロジェクトチーム」が立ち上げられました。大学と連携しながらプロジェクト会議を重ね、事務局の運営や事業内容について、より良い方向性を見出していきたくと考えております。

会員の皆様におかれましては、今後とも変わらぬご支援とご協力を賜りますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

上越教育大学同窓会 会長

笠原 芳隆

修了生の住所等をお知らせください



転居・転職・結婚等により個人情報の変更があった場合は、お知らせください。

令和10年10月上越教育大学は創立50周年を迎えます。

ご寄附のお願い - 教員養成を通して皆様の思いを将来ある子どもたちに -



上越教育大学創立50周年記念事業

ご寄附の詳細などはこちら▼
https://www.juen.ac.jp/50shunen_tokusetsu

上越教育大学 創立50周年記念事業

検索



上越教育大学基金

ご寄附の詳細などはこちら▼
<https://www.juen.ac.jp/300kikin/>

上越教育大学 基金

検索



インタビュー 大学院で輝く人

大学院2年
心理臨床研究コース
(心理臨床領域)

ねもと じゅんいち
根本 潤一さん

大学院進学背景

私は高校時代に恩師からの勧めで教師を志すようになりました。子ども一人ひとりが輝ける環境づくりをサポートできる教師を目指し、大学では教育心理学を専攻しました。大学での学びの中で、子どもに心理的な支援が有効となる機会の多さに気づき、公認心理師、臨床心理士資格を有した教員になることを目指すようになりました。現在は公立学校の採用猶予を受けながら大学院に在籍しています。

本学での学び

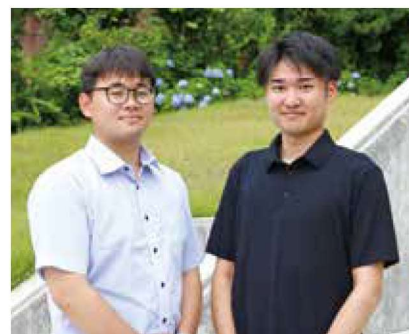
本コースに在籍する院生は、心理学や特別支援教育などを専攻してきたストレートマスターだけでなく、現職の学校の先生も多く、これまでの多様な経験から日々白熱した議論が行われています。心理職が活動するのは5領域（教育・保健医療・司

法犯罪・産業労働・福祉）であることから、院生の目指す将来像も多種多様です。教育大学という枠組みを超えて、多様なバックグラウンドや目標を持つ仲間が集うこの環境は、私にとって大きな財産となっています。異なる視点を持つ仲間と「心理学」という共通言語で語り合い、互いの専門性や経験をぶつけ合うことで、既存の枠組みにとらわれない柔軟な視野を養い、未来のあらゆる可能性を広げてくれます。

多領域でご活躍されている先生方による講義に加え、学外での実習も豊富に設定され、多くの知識を吸収できています。また、本学には心理教育相談センターも併設されていて、さまざまなケースを担当させていただいています。理論と実践の往還をしながら自らの課題と向き合い、専門職として成長できる充実した環境があります。

最後に

修了後も固定観念に囚われず学び続ける貪欲さと柔軟な姿勢を大切に、専門職として高い志を持ち続けていきたいです。



インタビューを終えて

根本さんは、学部生時代から一緒に学んでいる仲間です。子どもたちのために、教育学だけでなく、臨床心理学についても専門性を高めていく姿は、同期の指針になっています。学び続ける姿勢は、私も模範にしたいです。

■ 聞き手・文(写真左)
大学院2年
心理臨床研究コース
(心理臨床領域)
武井 大夢



アンケートにご協力ください

公式ホームページにおいて本誌に関するアンケートを実施しています。左のQRコードを読み込むことで、携帯端末からでもご回答いただけます。

QRコードは(株)デンソーウェーブの登録商標です。

JUEN 上越教育大学学園だより
2026 秋 No.56 (令和8年9月発行)

編集・発行

上越教育大学情報・広報委員会

デザイン・監修

芸術・体育・総合教育学系
准教授 安部 泰

制作

株式会社 タカヨシ

お問い合わせ先

上越教育大学
総務課 広報チーム
〒943-8512
新潟県上越市山屋敷町1
TEL 025-521-3626
FAX 025-521-3220
E-mail kouhou@juen.ac.jp
URL https://www.juen.ac.jp/



上越教育大学
公式 Facebook



上越教育大学
公式 Instagram

公式ホームページから、
バックナンバーの閲覧ができます。

※本誌掲載の文書・記事・写真等の無断転載はお断りします。



この印刷物は、印刷用の紙へ
リサイクルできます。